

## サイエンスカフェについて

1. 日本学術会議サイエンスカフェ実施へのお誘い .....	1
参考1：声明「社会との対話に向けて」（2004年4月20日） .....	3
参考2：サイエンスカフェに関する今後の対応について（2007年11月22日） .....	4
2. サイエンスカフェの講師募集について .....	5
3. サイエンスカフェについて（実施手順等） .....	7

## 1. 日本学術会議サイエンスカフェ実施へのお誘い

平成22年3月31日改  
日本学術会議・科学と社会委員会  
科学力増進分科会委員長 毛利衛

サイエンスカフェは、科学者が市民と対等の目線で出会うコミュニケーションの場です。第19期に出された声明「社会との対話に向けて」（2004年4月20日）では、「日本学術会議は自ら、科学に対する社会の共感と信頼を醸成するために、あらゆる行動を行う」と謳っています（参考1）。

この声明を受けて、日本学術会議では、科学コミュニケーションを重要な活動の一つとして位置づけ、各地でサイエンスカフェを開催してきました。日本学術会議がこれまで主催ないし共催という形で行ったサイエンスカフェは、平成18年度以来、延べ100回以上に及んでいます。

科学者の代表機関である日本学術会議が、ボランティアでアウトリーチ活動を行うことは、他の科学者や研究者への意識を高めていく上で重要です。また、こうした活動がこれまであまり活性化してきていない地域に対しては、サイエンスカフェの開催を通して、日本学術会議ならではの活動を全国的に展開していただけますよう、ここにお誘いする次第です。

日本学術会議としてのサイエンスカフェを開催するに際しては以下の諸点にご配慮いただければと存じます。

また、サイエンスカフェ開催に当たっての注意事項等につきまして、「サイエンスカフェに関する今後の対応について」（平成19年11月22日）の資料も併せてご参照下さい（参考2）。

- 1) サイエンスカフェは、科学者と市民とが対等の目線で、科学をめぐる対話の関係を作ることを目的としています。
- 2) 日本学術会議は「国民の科学に対する理解の増進を図る」ことをその役割の一つとしています。サイエンスカフェが、未だ十分に行われていない地域に対しては、今後、特に積極的に開催していくことが望まれます。
- 3) サイエンスカフェを主催または共催するにあたって、講師及びファシリテーターを依頼する際には、予算の範囲内で旅費・謝金等の支給が可能ですので、事務局にご相談下さい。
- 4) 日本学術会議のサイエンスカフェは、日本学術会議の会員、連携会員が、自らの主体的な意思に基づき、開催を企画・運営するものです。サイエンスカフェの主催または共催をする場合には、「日本学術会議主催または共催」の名称を、また、会員、連携会員が講師として参加する場合には「日本学術会議会員または連携会員」の肩書きをポスターおよびプログラム等において明示することで、科学者コミュニティの代表機関として日本学術会議の活動を具体的に社会に示すようご配慮ください。
- 5) 課題別委員会、分野別委員会、機能別委員会、地区会議など、委員会の諸活動において、一般市民と直接触れ合う機会を通して、広く意見を聴取する機会を確保するた

め、また、委員会の活動成果を直接、市民に向けて発表する機会として、サイエンスカフェの場を活用していただくことで、日本学術会議の活動が目に見える形で社会に還元することが可能になります。

- 6) 全国で展開されている様々なサイエンスカフェをさらに実り多いものにしていくための、求心的役割を担う場として、科学コミュニケーターの育成をも念頭に入れたサイエンスカフェの開催を推進していきたいと考えています。会員や連携会員によって開催されるサイエンスカフェについては、事前に開催の旨を事務局にご連絡いただくとともに、その内容や反響などを、分科会において確認の上でホームページに掲載しますので、事後に事務局にご報告をいただければ幸いです。サイエンスカフェの今後の形をデザインしていくことも日本学術会議の重要な課題です。サイエンスカフェに関する会員や連携会員の皆様のノウハウや体験を蓄積していく上で、ご協力いただければ誠に有難く存じます。
- 7) 日本学術会議は、サイエンスカフェの講師として御協力下さる会員・連携会員（現会員・連携会員に限定せず、過去に所属された方も対象とします）の登録を行い、情報をホームページに公開しています。是非ともご登録いただきますようお願いいたします。

参考1：日本学術会議 声明「社会との対話に向けて」（2004年4月20日）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-19-s1012-1.pdf>（日本語）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-19-s1012-2.pdf>（英語）

参考2：サイエンスカフェに関する今後の対応について（2007年11月22日）

声明「社会との対話に向けて」

日本学術会議、2004 年4 月20 日

我々日本学術会議は、科学者と社会が互いに共感と信頼をもって協同することなくして、いかなる科学研究も生命感の漲る世界を持続させることができないことを認識する。さらに、我々は、科学研究は、社会が享受すべき成果をもたらす反面、社会に対する弊害を引き起こす恐れがあるという正負両面があることを、科学者も社会も明確に理解すべきであると認識する。

このような認識に立ち、我々は、科学者が社会と対話をする事、特に人類の将来を担う子どもたちとの対話を通して子どもたちの科学への夢を育てることが重要であると考えます。

我々日本学術会議は、これから科学者と社会がしっかりと手をつないでいくことを推進する。まず、日本学術会議は、子どもたちをはじめとするあらゆる人々と科学について語り合うように、全ての科学者に呼び掛ける。また、日本学術会議は自ら、科学に対する社会の共感と信頼を醸成するために、あらゆる可能な行動を行う。

## サイエンスカフェに関する今後の対応について

平成 19 年 11 月 22 日

日本学術会議会長 金澤一郎

サイエンスカフェは、科学者が市民と少人数で直接コミュニケーションを行う草の根活動です。平成 18 年度には日本学術会議の主催または共催によるものが 30 回程度開催されましたが、平成 19 年度からは新たに関連予算を計上し、今後とも一層積極的に取り組むこととしているところです。

このような状況を踏まえて、サイエンスカフェに関する対応については、当面、以下のとおりとするようお願いします。

1. 日本学術会議の会員、連携会員、部、委員会、分科会等は、サイエンスカフェを主催または共催したり、サイエンスカフェに講師として参加するなどにより、科学者と市民との対話に積極的に取り組むようにしてください。

2. 会員、連携会員、部、委員会、分科会等がサイエンスカフェを主催または共催する場合には「日本学術会議主催（または共催）」の名称を、また会員、連携会員がサイエンスカフェに講師として参加する場合には「日本学術会議会員（または連携会員）」の肩書きを、ポスター、プログラム等において用いることにより、科学者コミュニティの代表機関としての日本学術会議の活動を、具体的に目に見える形で社会に示すよう努めるようにしてください。

なお、サイエンスカフェは、専ら日本学術会議の見解を示すための場ではないことを徹底してください。

3. 運営内規第 5 条は、学術会議が講演会、シンポジウム等を開催する場合には、開催主体に応じて幹事会の決定または承認を得ることといった手続きを定めていますが、サイエンスカフェについては、小規模の会であること、科学者と市民との間の双方向のコミュニケーションの場であること、コーヒーを飲みながらといった気軽な雰囲気で開催されるものであることを踏まえて、会員、連携会員、部、委員会、分科会等はこれらの手続きを経ることなく主催または共催して差し支えないこととします。

一方で、サイエンスカフェは日本学術会議として重要な活動であり、幹事会として実績を把握することが必要ですので、事前に開催の旨を事務局に連絡するようにしてください。

なお、講演会、シンポジウム等を開催しようとする際に、幹事会の決定または承認といった手続きを省略する意図でサイエンスカフェを名乗るなど上記方針を濫用することのないよう留意してください。

## 2. サイエンスカフェの講師募集について

### 1. サイエンスカフェの開催

科学と社会委員会科学力増進分科会（委員長 毛利 衛）では、国民の科学力を増進する活動のひとつとして、平成 18 年の科学技術週間に、全国 21 箇所においてサイエンスカフェを開催し、また、平成 20 年 3 月からは、毎月第四金曜日夕方に、文部科学省情報ひろばにおいてサイエンスカフェを開催するなど、積極的にサイエンスカフェの開催に取り組んできました。

サイエンスカフェは、科学者が市民と対等の目線で出会うコミュニケーションの場として実施しているものですが、この試みは世界的にも日が浅いものであり、科学力増進分科会では、一層、サイエンスカフェを通じて、科学と社会とのコミュニケーションを図っていく活動に取り組んでいく予定です。

### 2. 講師募集について

科学力増進分科会では、日本学術会議第 20 期において、会員・連携会員が参加するサイエンスカフェが活発に開催されることを目的として、また、今後他の団体等からサイエンスカフェのための講師派遣要請があった場合のため、会員・連携会員の皆様にサイエンスカフェの講師登録をお願いしてきました。

第 21 期におきましても、本活動をさらに活発化するために、引き続き、会員・連携会員の皆様の講師登録をお願いしたいと考えております。

サイエンスカフェ活動に興味と関心をお持ちの方の積極的な協力をお待ちしております。

#### ○ 講師登録手続き：

登録を希望する方は、①氏名、②職名、③専門分野、④予定タイトル、⑤サイエンスカフェに関するご意見・ご要望、を「サイエンスカフェ講師登録票」にご記入の上、下記までお申し込み願います。登録票の電子媒体をご希望の方は、下記までご連絡ください。

※ 登録いただいた内容を基に講師リストを作成、サイエンスカフェ実施団体等への協力依頼用資料とし、日本学術会議のホームページで公開します。

※ 第 20 期にご登録頂きました会員・連携会員の方々は、引き続き講師リストに掲載させて頂きたいと存じますので、修正点等ございましたらご連絡下さい。

#### ○ 申込み・問合せ先：

日本学術会議事務局参事官（審議第二担当）付 山中・山本・西山・新城

TEL : 03 (3403) 1056

FAX : 03 (3403) 1640

E-MAIL : s253@scj.go.jp(係共用)

## サイエンスカフェ講師登録票

<b>氏名</b>	(第1、2、3部) (1.会員、2.連携会員)
<b>所属・職名</b>	
<b>専門分野</b> (一般の人にも 分かり易い形 で、なるべく詳し くお書きください)	
<b>予定タイトル</b> (市民向けに、こ んなことなら話 せるという項目 を複数お書きく ださい)	1)
	2)
	3)
	4)
	5)
<b>連絡先</b>	E-mail address :
	TEL:
	連絡先のホームページ記載 (1.可、2.不可)
<b>サイエンスカフェ に関するご意 見・ご要望</b>	

**[申込み先]**

日本学術会議事務局参事官(審議第二担当)付 山中・山本・西山・新城

TEL : 03 (3403) 1056      FAX : 03 (3403) 1640

E-MAIL: s253@scj.go.jp(係共用)

### 3. サイエンスカフェについて(実施手順等)

## サイエンスカフェとは？

街中のカフェでコーヒー片手に、人々と科学者が  
“サイエンス”をテーマに自由闊達に対話・議論する場

### 特徴

- コーヒーを飲みながら → 講演会ではない。日常の延長
- 少人数である → 参加者全員が対話に参加
- 専門用語は使わない → “誰も”が気軽に参加が可能
- アットホームな雰囲気 → 参加者同士の議論も歓迎

日本学術会議は政策の提言にとどまらず、国民と科学をつなぐ科学コミュニケーターの役割を積極的に果たすべきである。今回実施するこのサイエンスカフェでは、日本学術会議会員が一科学者として率先して市民と同じ空間・時間を共有し、価値観や疑問点のすり合わせを行い、科学者と一般社会の双方の認識のずれや共通点を顕在化させると同時に、日ごろから対話する文化をつくり科学技術についての会話に対する素養を国民すべてがもてるようにすることを目的とする。

### 日本学術会議におけるサイエンスカフェの開催について

#### 日本学術会議 声明「社会との対話に向けて」(2004年4月20日)

日本学術会議は自ら、科学に対する社会の共感と信頼を醸成するために、あらゆる可能な行動を行う。

#### 日本学術会議において、積極的にサイエンスカフェを開催

日本学術会議における開催の意義： 国民の科学に対する理解の増進を図ることに加え、

- ・ 課題別委員会、分野別委員会、機能別委員会、地区会議など、委員会の諸活動において、一般市民と直接触れ合う機会を通して、広く意見を聴取する機会を確保。
- ・ 委員会の活動成果を直接、市民に向けて発表する機会を確保。
- ・ 科学コミュニケーターを仕事とする人たちのファシリテーターとして起用。

- ・ 日本学術会議として今後発信していく様々な提言や要望へ繋げていく。
- ・ 日本学術会議の活動が目に見える形で社会に還元。
- ・ 科学コミュニケーターの育成。

#### 会員・連携会員の皆様へのお願い

- ・ 会員・連携会員の講師登録
- ・ 会員・連携会員によるサイエンスカフェの開催  
(特に、サイエンスカフェが未だに行われていない地域における積極的な開催)

## サイエンスカフェ実施の手順について

